

【和歌浦天満宮の主な特色】

① 風光明媚な万葉からの景勝地「和歌ノ浦」総氏神様

② 聖武天皇和歌浦行幸時「詔」発声の地【724年】続日本紀 十月条

「山に登りて海を臨むに、此の間最も好まし、遠く行くを勞せずして、以て遊覽するに足れり、故に弱浜の名を改めて、明光浦と爲し、宜しく守戸を置きて荒れ穢らしむること勿からしむ」

・末社「天照皇大神宮」創建の由来であり、和歌浦を一望できる当社楼門付近の有力説があります。

③ 万葉時代からの已守り神【白藤蛇大明神鎮座地】

・聖武天皇の「詔」により奈良時代から大切に守り続けられた天神山の社には白く藤色に輝く白藤蛇の住処があり神様として崇めるべく住処に祠が建立されました。

④ 築城石垣を神社転用された類例の無い青石壁・青石階段

・豊臣秀吉の命で朝鮮半島の蔚山城築城に関わった加藤清正と浅野幸長は、それぞれ熊本、和歌山の地で藩主となり、加藤清正は熊本城を築城、浅野幸長は既に和歌山城があつた爲に志向を変えて最先端の技術をもつて城の石垣を築き、その上に城では無く和歌浦天満宮を大規模再建したものと考えられます。

⑤ 社寺建築最高峰 仏教の禪宗建築様式を神社建築に取り入れた初見の社↓当社楼門【1604年建立】

⑥ 本殿の彫刻【眠り猫（日光東照宮よりも古く現存最古）】※非公開です。

⑦ 「三管廟」【太宰府天満宮・北野天満宮・和歌浦天満宮】

・1621年に東照宮が景勝地和歌浦での建築にあつて当社の移築計画及び取り壊し計画から守る爲に名付けられました。実際に日光東照宮は日光一荒山神社（国幣中社）を後方へ移築させて建立されている。

⑧ 「重要文化財」4棟・本殿【1916年に登録】旧国宝・楼門【1935年に登録】旧国宝

・天照皇大神宮及び多賀大社【1974年にそれぞれ登録】

⑨ 「国指定史跡名勝」【2010年に登録】

⑩ 「日本遺産」【2017年に登録】

⑪ 名古屋城本丸御殿「和歌浦天満宮祭礼行事（元和歌祭）障壁画」【1615年に完成（1945年焼失）2018年に復元工事完了】
・和歌浦天満宮当時の祭礼行事である屋形船上狂言興行「止動方角」及び「弓比べ」が「名古屋城本丸御殿次ノ間」に復元されています。